

人財を育てよう

内山 充

この数年来、薬剤師の周りには大きな変革が起こりつつありますが、今なすべき大切なことは、薬剤師が自らの手で薬剤師業務に「新しい社会的価値」を創り出すことです。そのためにもっとも必要なものは、法規でも制度でもなく、人財（材料としてではなく、財産としての人財）です。したがって、薬剤師の教育・研修が薬剤師の将来を担っているとも言えます。

「できる者は行い、できない者は教える」というのは、バーナード・ショウの言葉として有名です。しかし、この言葉は、単に辛らつな皮肉としてではなくて、より深い意味を含んでいると考えることができます。

まず前半の「できる者は行い」とは、知識や技術を身につけたいいわゆる学習者、能力者が数多くいる中で、知識や能力を持っているだけではなく、それをもとに実際に行動する人を「できる者」という、という意味ではないでしょうか。

われわれの周囲には情報が溢れ、いつでも何でも取り入れられる状況の中で、それを単に溜め込んでおくだけでは情報屋に過ぎません。自分で評価し意味づけて利用できるようになって始めて知識となるのですが、本当はそれらの知識が、無意識に行動として現れるようになる、すなわち知識が知恵になって、常に実践に結びつくような人が「できる者」と言えるのだと思います。

次に、「できない者は教える」というのは、前半の言葉に関する上述の解釈を引き継いで考えれば、行うべき課題を数多く知っていても実践ができていない者は、後から来るものにそれを教えて、実践に結びつく知恵を持てるよう道を示し、その結果、学んだ者が「できる者」になることで、教えるものとしての役割を立派に果たすことができる、という意味と思われます。

教育・研修とは、教え込むことではありません。Educationの語源のeducareは、「外に引き出す」とか、「演繹（推論）する」という意味を持っています。教える立場の者は、学ぶ者の持つ才能を引き出すことに努めるべきなのです。また、カリキュラムを消化させるばかりではなく、受講者が、学んだ事実を評価し、それから推論される何かを自ら習得できるように指導することが大切です。それによって、受講者は自分自身の創造力を生み出し、実践の行動力が養われるでしょう。

薬剤師教育・研修の目的は、新しい「薬剤師の社会的価値の創造」に貢献し、将来を担うことのできる行動力を持った人財を、ひとりでも多く創り出すことにあると思います。

(2008.10.31)